

2004年11月24日

各 位

顆粒水和剤用のCMCの新規開発について

第一工業製薬株式会社

第一工業製薬(本社:京都、社長:津田章裕)は、このたび顆粒水和剤用のCMC(カルボキシメチルセルロース、製品名**セロゲン701A**など)を開発し、市場販売を開始いたします。顆粒水和剤は、需要が急増している新しい農薬製剤で、また、CMCは、顆粒水和剤の結合剤として適しています。CMCにより調整した顆粒水和剤は顆粒の強度が高く、水中に投入すると速やかに崩壊・分散し、高レベルの水中崩壊性と懸濁安定性を備えることが可能です。具体的には、**セロゲン701A**を顆粒水和剤に使用すると、顆粒強度が大きく、泡切れが良くなります。これらの現象は、顆粒強度、泡立ち、水中崩壊性、懸垂率などの実証試験において確認し、2004年11月25日開催の日本農薬学会の農薬製剤・施用法シンポジウムにて発表いたします。

当社は、新潟県に国内最大のCMCの製造プラントを稼働させています。CMCはセルロース(植物繊維)を出発原料とする素材で、食品をはじめ医薬・化粧品などに、結合剤、増粘安定剤、分散剤として幅広く使用されています。当社は、これまで農薬メーカー向けに、農薬製剤用のCMCや界面活性剤を販売してまいりましたが、農薬製剤のひとつである顆粒水和剤は、CMCの新しい用途として今後の市場拡大が期待されている分野です。

農薬開発においては、毒性・薬害軽減のための溶媒の水溶性化、微粉の吸入防止やドリフト(漂流飛散現象)防止のための粒状化、農作業の負担軽減のための軽量化など、新しい農薬製剤の開発が進められています。なかでも、顆粒水和剤は、高濃度で溶媒を含まないこと、軽量化による物流の効率化や包装紙のコンパクト化などのメリットが注目され、開発が急拡大しています。

農薬製剤の総生産量は1985年の63万トンがピークで、現在では、約30万トン強となり、少量でも効果があり、かつ、環境や人にやさしいものが普及しています。このうち、顆粒水和剤の生産量は現在年間1,000トンとわずかですが、需要が急速に伸びており、数年後で生産量3万トンと予測しており、顆粒水和剤を含む農薬製剤用の**セロゲン**シリーズの5年後の販売額は、約3億円を計画しています。

本件についてのお問い合わせ先

第一工業製薬(株) 広報IR室

TEL 075 - 255 - 0915

以 上